

『晴々とハレイワ紀行』

「お参りですか」とは、ホノルル空港での一言。税関の役人が浅黒い精悍な顔つきで尋ねます。思わず「はい、そうです。」と、日本人の私の方が変な英語なまりで返事をすると、明るい笑顔で、「お氣をつけて」と氣遣う言葉が続きます。日本に対する親近感の表れなのでしょう。

目的地の「ハレイワ」と言っても、現地の誰もが知っている訳では無い様ですが、「ノースショア」と言うと、サーファーの間ではよく知られた場所で、大変美しい海辺の町です

その現地開教区ハレイワ真言宗の弘昭寺に着任して以来、半世紀に渡って布教活動을 続けてこられた秋山泰憲僧正の招待を受け、昨年より二度目の訪問と成りました。

今ではアメリカ合衆国のハワイ州として認知されていますが、元々は独立した「王国」で、特に「カメハメハ大王」と言えば

聞いたことがあると思います。

日本では、戦前戦中の記憶も薄れ、すっかり観光リゾート地等のイメージしか表には現れていませんが、そこには多くの苦難を乗り越えて、明るく逞しく生き抜いてきたハワイ王国が脈々と存在しています。

ここ弘昭寺で毎年恒例の「報恩と感謝のセミナー」と題し、高野山の僧侶を招いての法要と法話が行われています。

現地の住民はもとより、近隣の島々から飛行機で集まると言いますから、そのスタイルの違いに驚くばかりですが、宗教や宗旨や人種を越えて、市民集会の様な雰囲気はとても新鮮な感じを味わえます。

「良いことは共有する」「先入観を持たない」「前向きに受け取る」など、出来そうで出来にくい習慣が、ハワイでは無理なく息づいています。シェイクハンド（握手）やハグ（抱擁）など、私が僧侶でも委細構わずスキンシップを求めてきます。

何だか、何を決めつけて居るのか、自分

の有り様を打ち砕いてくれるような開放感を感じるのは、訪れた多くの方々が感じる心地よさの本質なのかも知れません。

さて、このセミナーでは、高野山の伝統的な呼吸法「阿息観」を日常的に取り組めるよう、簡略化して伝える試みをしてみました。好奇心いっぱいでの眼差しに、こちらの方が刺激を受けて心地よかったです。

終えた後の昼食会は、参加者の持ち寄った家庭料理が所狭しと並んでいて、バイキングの様に好きな物を好きなだけ取って頂きます。押しつけるような進め方が無いので気が楽です。

スケジュールの都合で、移動二日の現地一泊の行程でしたが、時間には代えがたい感覚を毎回感じる事が出来ます。ちなみに、日本航空の客室乗務員と往復とも同じ便だったので、ずいぶん驚かれました。法衣姿で小荷物一個、とても怪しい旅行者でした。

平成二十五年師走

南山沙門修詮記